



インターネットをパーソナルジュークボックスにする!

# “ デジタルロッカー サービスの実力 ”

たじま たけし  
from OOPS! Music Community  
Jump oops-music.com

ブロードバンドがいよいよ日本でも普及しようとしている。高速で常時接続が現実のものとなると、その能力を十分に発揮できるサービスが重要になる。サーバー上に置かれた音楽のようなデジタルメディアファイルを操作できるデジタルロッカーは、まさにブロードバンド向けのサービスの1つだ。ここではその背景と代表的なサービスである “ MyPlay.com ” の使い方を解説しよう。

## 音楽業界も注目のサービス登場!

本誌2000年6月号でも紹介したが、インターネット上のサーバーにファイルを保存し、いつでもダウンロードできるサービスがある。しかも無償で数十メガバイトのディスクスペースを提供してくれるというものだ。

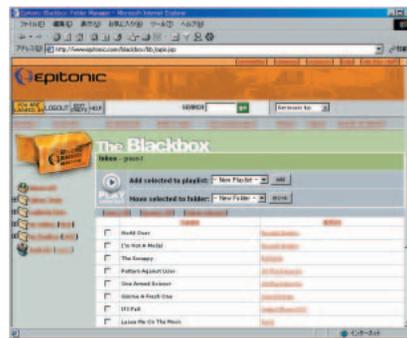
この手のサービスのうたい文句はこうだ。「インターネットにつながったPCがあれば、ユーザーはいつでもどこでも保存したデータを取り出すことができる。」

たしかにうたい文句どおりの便利さはあるものの、ファイルを使いたいときにいちいちダウンロードするのが面倒だといった場合がある。たとえばストリーミングで再生できる音楽ファイルや映像ファイルのようなデジタルメ

My.MP3  
Jump My.MP3.com



Epitonic The Blackbox  
Jump www.epitonic.com



MP3.comのMy.MP3はすでにBeam-it(右ページ囲み参照)などで有名だ。マニアックな選曲で音楽ファンを掴んでいるEpitonicもThe Blackboxというデジタルロッカーサービスを提供している。

ニアファイルがそういったたぐいのものだ。実際に、この考えを押し進めて、保存した音声データをストリーミングで再生できるサービスも登場してきている。

「デジタルロッカー」サービスと呼ばれるこのようなサービスは、特にデジタル音楽業界に注目されていて、実際にサービスとして取り入れようという動きがあるようだ。

たとえば、米ソニー・ミュージックと米ユ

ニバーサルミュージックは北米向けに共同で“Duet”というサービスを開始するとアナウンスしている。ただ、彼らのような音楽配信事業者の場合は、ユーザーに音楽ファイルを「保存」させるというより、サーバーに置かれた彼らの提供する音楽ファイルを、ユーザーに選択させて「保管」するサービスを提供している。いわば音楽ファイルのパーソナライズなのだが、すでにMP3.comのMy.MP3や

Epitonicなどがこのサービスを提供している。ほかに、米ソニー・ブロードバンド・エンターテインメントのベンチャーキャピタル部門、550デジタルメディアベンチャーズが構想しているUnsurface **KJump** によって音楽のみならず、映画やゲームの分野でもデジタルロッカーサービスが始まると言われている。

**KJump** www.unsurface.com

## ブロードバンド+ストリーミングだからデジタルロッカー

音楽配信の現状はダウンロード中心だが、ユーザーから見ると、数メガバイトのファイルをダウンロードするには時間を要するうえに、ダウンロードしたファイルを保存するのにPCのディスクスペースが否応なしに圧迫されてしまうという弊害がある。また、コンテンツ提供者から見ると、著作権保護のためダウンロードされるファイル自体に何らかの制限を設けなければならない場合が多い。

デジタルエンターテインメントの調査会社であるウェブノイズは、米国の大学生の65パーセントが音楽データをダウンロードするよりも、ストリーミングで聴くことを望んでいるという調査結果を提示したうえで、上記のようなダウンロードの問題点をストリーミングが解決してくれると指摘している。

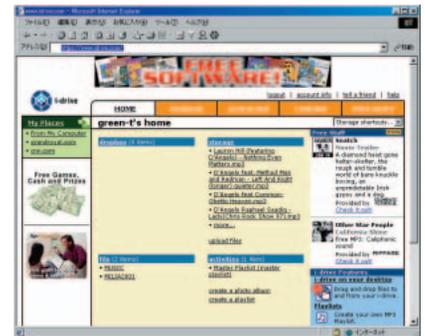
著作物をインターネット上のディスクスペースで一元管理し、広帯域の回線を用いてダウンロードさせずに再生すればコピーにまつわる煩雑な問題を一気に解決できる。まさに時代はデジタルロッカーに向かっていると言える。

一方、最近になってADSLやCATVインタ

ーネットなどの広帯域インターネット回線、いわゆるブロードバンドの話が耳にすることが多くなった。一部の地域ではすでに10Mbps超の接続スピードを可能にするFTTHの運用も始まっており、ブロードバンドはすぐ手の届くところまで来ていると言える。

ブロードバンドの一番のメリットは、音声や映像情報といった大きなデータ量の情報を扱いやすくなったことだ。現状の数百kbps～1Mbps超のスピードのブロードバンドでは、映像については意見の分かれるところだが、音声については音楽CD品質のストリーミングは問題なく再生できる。こういった点から見ても、デジタルメディアファイルを直接再生できるデジタルロッカーサービスの意義は大きい。

なお、通信機能を持たない携帯音楽プレイヤーを使う場合は、ダウンロードしたファイルをプレイヤー側に転送しなければならないが、今後はIMT-2000のように無線のブロードバンド化も進み、携帯電話でもストリーミングで音楽が再生できるようになる可能性もあるだろう。

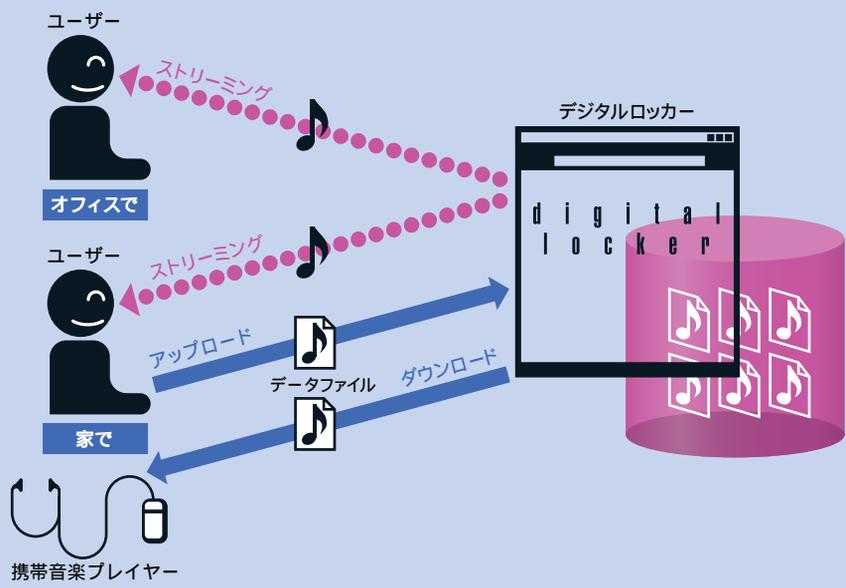


i-drive.com

**KJump** www.idrive.com

オンラインストレージサービスのi-drive.comも単なるファイルの保存だけでなく、音楽データのストリーミングの再生ができる。ウェブページのクリッピングサービスやファイルの交換サービスもあるので、音楽だけに特化せず幅広い使い方をしたいユーザーにはうってつけだ。

### デジタルロッカーサービスの仕組み



### 音楽CDをデジタルロッカーに!

興味深い試みとしては、昨年話題となったMy.MP3のBeam-itサービスがある。これは、ユーザーが音楽CDを自分のPCにセットすると、MP3.comのデータベースにあるその音楽CDのMP3ファイルを利用できるようになるサービスなのだが、これもデジタルロッカーの一種と考えられる。MP3.comはこのサービスを開始したことで、RIAAをはじめ各レコード会社から抗議を受けたが（巨額の違約金を払うことで一応の解決を見た）、同様の試みはMusicbank.com **KJump** でも提供されている（Musicbank.comは各レコード会社と契約することで穩便にサービスを提供している）。ただ、いずれも北米向けのサービスで日本からは利用できないのが残念だ。

**KJump** www.musicbank.com

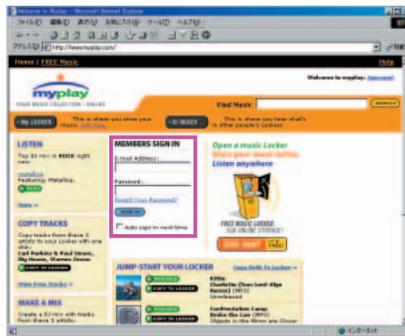
# MyPlay.comでパーソナルジュークボックスを作る

さて、さっそくデジタルロッカーサービスを利用してみたいことにする。今回はユーザーに3ギガバイトものディスクスペースを無償で提供しているMyPlay.comの使い方を紹介しよう。

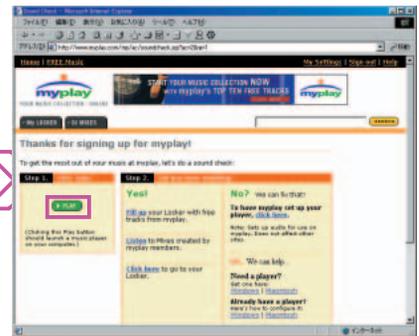
MyPlay.comは音楽だけに特化したデジタルロッカーで、ユーザーが持っている音楽データをサイト上に登録したりMyPlay.comの提携サイトから音楽データをユーザーのロッカーにコピーしたりできる。

アップロードできるファイルとしては、MP3をはじめ、ウィンドウズメディア、WAVファイル、AUファイル、リキッドオーディオ、TwinVQ、リアルオーディオへの対応をうたっている。なお、ストリームで再生できる形式については、MP3、ウィンドウズメディア、WAVファイルの3つとなっている。

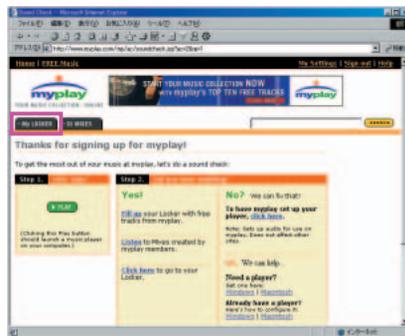
もちろん音楽データを再生するためには、再生ソフトが必要になる。WinAmpやウィンドウズメディアプレーヤー、リアルプレーヤーなどをインストールしておく必要がある。



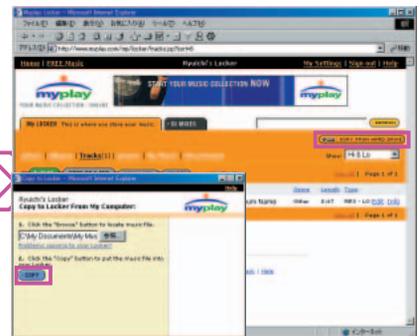
1 MyPlay.comを利用するためにはユーザー登録が必要になる。登録は、e-mailとパスワード、名前、郵便番号を入力するだけで完了する。



2 次に簡単なサウンドチェックを行う。「Play」と書かれた緑色のアイコンをクリックして、WinAmpなどの再生ソフトが立ち上がって音声が聞こえればOKだ。

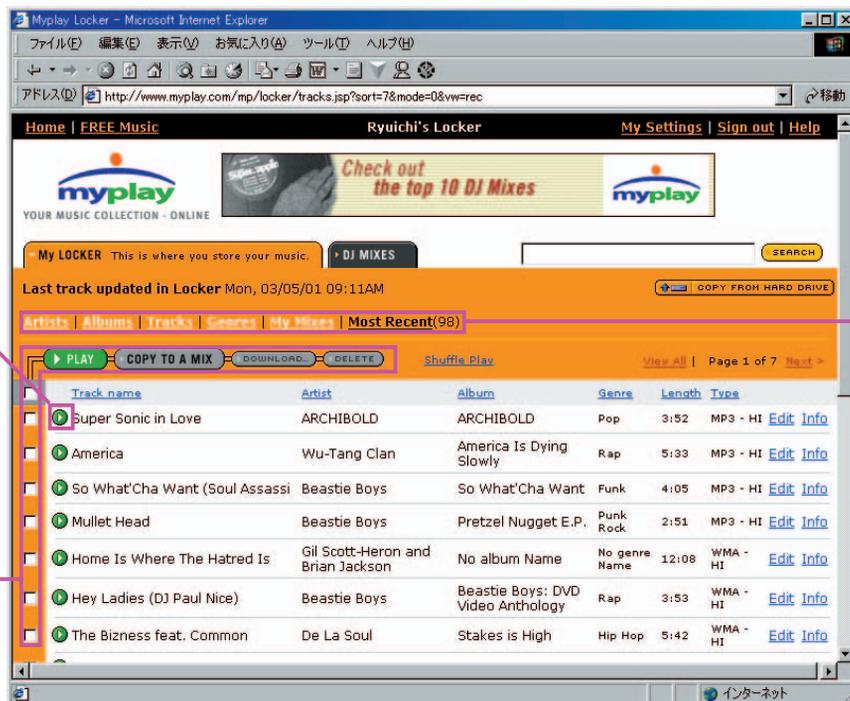


3 登録が完了したら「My Locker」をクリックしてMy Locker画面に移る。My Locker画面ではアップロードした音楽データ(トラック)の操作や管理を行う。



4 トラックをアップロードするには「COPY FROM HARD DRIVE」を押すと現れるポップアップ画面でPC上のファイルを選択し、「copy」を押すだけ。コピー後はトラックのアーティスト名やアルバム名を入力できる。

5 アップロードしたトラックを1曲ごとに聴く場合は、トラックの左側にあるボタンを押す。



6 トラックを連続して再生するには、チェックボックスにマークして「Play」ボタンを押せばいい。ほかにも、チェックしたトラックをMIX(右ページ参照)したり、ダウンロードやMy Lockerから消去したりもできる。

7 アーティスト名順、アルバム名順、トラック名順、MIX名順(MIXについては右ページ参照)、最近アップロードしたトラック順にトラックを並べ替えることもできる。

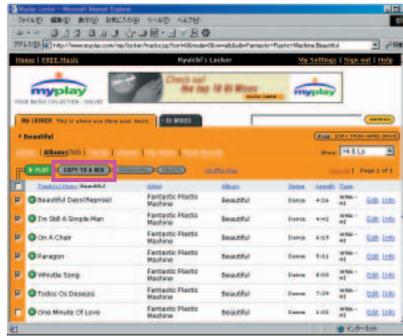
# MIX機能を使って自分がセレクトした曲を公開する

音楽好きなら、自分の好きな曲を適当に集めたテープなりMDなりを編集したことがあるだろう。MyPlay.comでは、ユーザーがMy Lockerに登録したトラックから複数の曲を選び、再生ファイルとしてMy Locker内に登録できる“MIX”と称する機能を提供している。

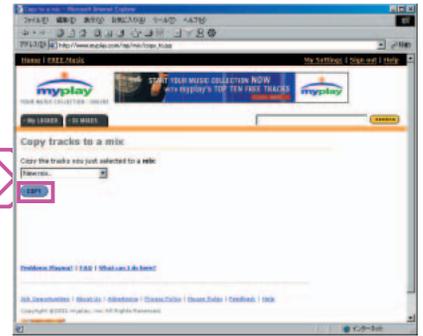
また、MIXで編集したものはほかのユーザーに対して“DJ MIXES”上に公開することもできる。もちろんDJ MIXESから、ほかのユーザーが登録したMIXも聴けるし、DJ MIXESに登録されているユーザー（DJ）に対してメールも出せるので、一種の音楽コミュニティだとも言えるだろう。

3 MIXを新規登録する場合は、MIXの名前と曲のジャンル、説明を入力する。

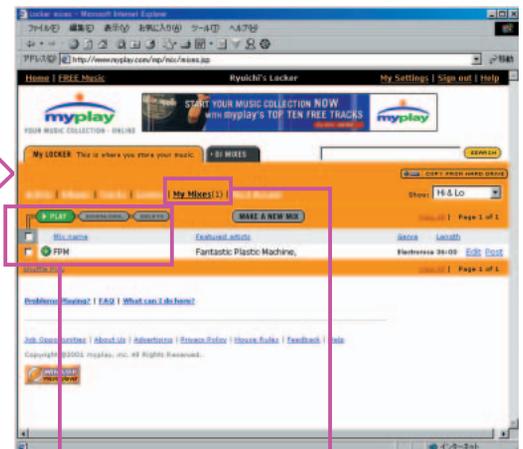
4 最後に“SAVE & POST”を押してDJ MIXESに登録すれば完了だ。MIXしたファイルを自分だけが楽しむ場合は、“SAVE”を押すだけでいい（DJ MIXESへはあとから登録することもできる）。



1 自分でMIXを作るにはMy Locker画面でMIXに登録したいトラックをチェックした後、“COPY TO A MIX”というアイコンを押す。



2 トラックをコピーするMIXの選択画面が表示される（新規の場合は“New mix”のみが表示される）ので、“copy”を押す。



5 MIXを登録すると再生画面になるが、MIXの再生方法は前ページで述べたトラックの場合と同じだ。

6 作成したMIXをあとからDJ MIXESに登録する場合は、My Locker画面でMy Mixesを選択して登録したいMIXの右端にある“Post”をクリックすればいい。



## d i g i t a l l o c k e r

今回とりあげたデジタルロッカーサービスは本文でも書いたように、デジタル音楽業界が注目している。彼らから見れば、とりあえずストリーミングによる音楽や映像の提供は著作権について神経質になることもない。ユーザーにとっても回線さえ十分であればダウンロードする手間もかからない。

また重要な要素としては、課金方式が大きく変わることだろう。ダウンロードでコンテンツを提供する場合は、1ファイルのダウンロードごとに料金を徴収する課金モデルだった

が、ストリーミングであれば定期購読（サブスクリプション）の課金モデルを適用しやすい。そうなれば、より多くの音楽データの提供が見込める。もちろん、Emusic.comや次世代のNapsterがアナウンスしているようにダウンロードサービスによる定期購読モデルもあるが、前述のように著作権保護の観点からするとユーザーにとっては使いづらいサービスとなってしまうかもしれない。

一方、今回とりあげたMyPlay.comのようなサービスは、音楽ファンのマーケティング

を実施する広告モデルが一般的のようだ。無償のサービスであるがゆえに、企業にとっては体力勝負となり、今後は音楽だけでなく映像やゲームなどさまざまなデータを保存・配信できるようにサービスを拡大していかなければ競争に追いついていけなくなるかもしれない。

いずれにせよメジャー企業の参入が注目されるデジタルロッカーは、インターネットのこれからのメディアサービスの中心になる可能性は高いだろう。

### デジタルロッカーはキラーサービスになりえるか？



## [インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

**株式会社インプレスR&D**

All-in-One INTERNET magazine 編集部

[im-info@impress.co.jp](mailto:im-info@impress.co.jp)